

三浦半島は 住みやすいと思っていたら...

この頃の台風これいよね

世界的な気候危機、私たちは 危機を止められる最後の世代

今、地球の平均気温は産業革命前に比べて約1度上昇しました。この1度の上昇で北極域の氷や氷河が融けだし、海面は100年で19cmも上昇しました。また気候は大きく変わり、世界のあちこちでこれまでにない規模の豪雨、干ばつ、山火事などが発生しています。今のように人間が化石燃料を燃やし続ければ、早ければ2030年までに1.5度上昇し、今以上に2100年までに3~4度上昇し、甚大な被害が予測されています。人類の生存を脅かす気候危機を回避するためには、化石燃料を燃やすことを止め、自然エネルギーなどへの転換が必要です。

今後、危険な気候を避けるためには、世界全体で排出されている温室効果ガスをとくに、2030年までに約半分にまで減らし、2050年までにはCO₂排出を実質ゼロにしなければなりません。今から10年の行動がとても重要になります。

石炭火力をやめていく国々

化石燃料の中で最もCO₂の排出が大きい燃料が石炭です。大型の石炭火力発電所1基(100万kW)は、年間約600万トンのCO₂を排出しますが、これは約150万世帯の1年間の排出量と同じです。石炭火力は天然ガス火力の約2倍のCO₂を排出します。

そのため、気候変動対策としては、石炭火力発電所への依存を減らすことに最優先で取り組まなければなりません。積極的な国では、例えばイギリスでは2025年、カナダでは2030年には国内のすべての石炭火力発電所を廃止することを宣言しています。このような“脱石炭”を宣言する国は、いまや36カ国にのほります。(2021年3月8日現在)

すでに1.0℃上昇

~たった1℃ですでに世界中に被害が~

	1.5℃	2.0℃
+1.5℃ or +2.0℃	昆虫 生息域が半減 約6,360種	約19,080種
	熱波 少なくとも5年に1回 約10億人	約27億人
	洪水リスク人口 1976-2005年比 約2倍	約2.7倍
	漁獲量減少 年間減少量 約150万トン	約300万トン

出典)「あと4年、未来を守るのは今」WEBサイトより

2030年までの脱石炭を実現・宣言した国々

1. アンゴラ
2. オーストリア
3. ベルギー
4. カナダ
5. コスタリカ
6. デンマーク
7. エルサルバドル
8. エチオピア
9. フィジー
10. フィンランド
11. フランス
12. ドイツ
13. ギリシャ
14. ハンガリー
15. アイルランド
16. イスラエル
17. イタリア
18. ラトビア
19. リヒテンシュタイン
20. リトアニア
21. ルクセンブルク
22. マーシャル諸島
23. メキシコ
24. オランダ
25. ニュージーランド
26. ニウエ
27. ペルー
28. ポルトガル
29. セネガル
30. スロバキア
31. スウェーデン
32. スイス
33. ツバル
34. イギリス
35. ウルグアイ
36. バヌアツ

なぜ今？

横須賀石炭火力発電所は、稼働すると年間 726 万トン CO2 を排出。
横須賀市の CO2 排出量 188 万トン（2017 年）の約 3.8 倍に相当し、
神奈川県 CO2 排出量 7721 万トン（2015 年）の約 10% に相当します。

横須賀で石炭火力発電所の建設が進む



今、横須賀市久里浜で、(株)JERA*による大規模な石炭火力発電所の建設が進んでいます。1号機は2023年から稼働開始予定だとされています。しかし、国連は気候危機を回避するためには、2020年以降の新規石炭火力発電所の建設は認められず、先進国は既存の石炭火力発電所を遅くとも2030年までには廃止する必要があると各国に要請しています。

東京湾岸では、2012年以降に4カ所で石炭火力発電所の建設計画が浮上しましたが、横須賀以外の3カ所(市原、千葉、袖ヶ浦)では計画中止となりました。横須賀の石炭火力発電所も建設を中止するべきです。

(東京湾石炭マップ)

* (株)JERA(ジェラ)

東京電力と中部電力が出資する日本最大の発電事業者。

石炭火力の建設を止めるために、まだできることがあります！

2021 年 1 月までの工事進捗率は 16.5% です（「JERA 横須賀ジャーナル」より）。中止の決断は今からでも遅くありません。

- 1 署名やアンケートに協力しよう
- 2 身近な人に計画について話そう
- 3 裁判の傍聴に行こう
- 4 東京電力からエネルギーシフトをしよう
- 5 再生可能エネルギーを進める政党に投票しよう



<https://nocoal-tokyobay.net/>

